

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	50	学校名	恵那南高等学校
------	----	-----	---------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域と連携・協働した幅広い学びを推進する高校として 総合学科の特長を活かした多様な学び、少人数の良さを活かしたきめ細かな教育を通して 一人一人の個性を大切に、地域を支える人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	社会的・職業的自立に向けた基礎となる資質や能力を培い、知・徳・体の調和のとれた心豊かな地域社会人を育成します。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の適性を理解し、自らの将来をデザインし、自己実現に向けて自発的に行動できる生徒</li> <li>多様な人々と協調性をもって豊かな人間関係を築き、他者と協力して課題解決に取り組める生徒</li> <li>地域との関わりを大切に、地域の課題を発見し、地域の持続的な発展に貢献できる生徒</li> </ul>	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の個性や能力を開花させ、将来の進路目標を実現するためのカリキュラムの編成とICT活用などによる分かりやすく個に応じた指導の実施</li> <li>「探究的な学び」や教科学習、対話的な学びによる、コミュニケーション能力と自己表現力の育成</li> <li>長く広い視野で自分の住む地域のことを考える心を育む教育活動の推進</li> </ul>	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動、部活動、生徒会活動などを通じて、自らの可能性に挑戦したい生徒</li> <li>人との関わりやつながりを大切に、仲間と協力しながら主体的に学びたい生徒</li> <li>地域活動やボランティア活動などに主体的に参加し、地域社会で活躍したいという意欲のある生徒</li> </ul>	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数であるが多様な生徒に対応するために、地域との連携、協同により自己の存在意識を高め、地域社会における責任を果たすことができる社会人を育成する場として存続し続けること。</li> <li>地域の少子化が進み、中学校の統合が進められている現状において、近隣中学校からの入学生の確保と他地域からの志願者を増やすこと。</li> <li>教員数の減少に伴い、これまで地域に根ざした学校として築いてきた様々な取組を受け継ぐ人材の確保と育成。</li> </ul>		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	生徒の特性や興味関心と進路目標に応じた学力の伸長を目指すとともに、主体的に学ぶ姿勢や進んで課題解決に探究する姿勢を高め、地域社会における自分の責任を果たすことのできる社会人を育成する場として存続し続けること。	
	生徒指導	地域や家庭及び義務教育学校、特別支援学校などとの連携を密にすることにより、生徒一人ひとりの視野を広げ、ものの見方、考え方を深めることでより一層の生徒理解・生徒支援を目指します。	
	進路指導	基本的な生活習慣・生活態度の定着を学校全般において徹底させ、地域に貢献できる人材の育成を目指します。	
	学校経営	教職員の働き方改革を推進し、教職員・生徒ともに生き生きと活動できる学校を目指します。	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	①多様な生徒に対して、少人数分割授業や習熟度別授業を展開し、ICT機器を効果的に活用するなど、学習方法を工夫し、学力の定着を図ります。	施策Ⅱ-9	授業アンケートによる授業評価 外部テストの学力状況	①年に2回授業研究週間において、教員が観点別評価の設定方法について検証、及び、生徒が学習理解を深めるためのICT機器の効果的な活用について実践した。 ②学校設定科目「観光資源研究」における土曜づくり、及びライフサポート系列生徒による絵本の読み聞かせを明智小の児童と実施した。 ③「文学座」による演劇ワークショップを3回実施、産業社会と人間、総合的な探究の時間において、全生徒が学習内容をパワーポイントでまとめて発表した。	B	○学校評価アンケート「ICT機器を有効に活用した授業が行われている」について81%の生徒が肯定的評価(前年比+4%)をした。 ○ICT機器を生徒の実態と教育内容を勘案しながら効果的に活用する教員が増えた。 ○B基礎力診断テストにおいて、1年次は数学平均が1ランク・英語平均が2ランクアップした。2年次は数学平均が1ランクアップした。 ○1年次の産業社会と人間では、地域で活躍する講師から「自己探究(自己の在り方)」について考えを深めることができた。 ▲「浪漫学園」での取り組みは、活動が特定の生徒に限定されてしまっている。	B
	②教育研究実践機関「浪漫学園」での協働的な学びや地域連携事業等の体験的な学びを活用し、主体的な学習姿勢や課題解決能力を高めます。	施策Ⅰ-1 施策Ⅰ-4 施策Ⅰ-7	地域活性化への貢献度 生徒の自己評価				
	③演劇等ワークショップや種々の地域連携事業を通し、生徒の主体性、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図る魅力ある教育を推進します。	施策Ⅰ-1 施策Ⅰ-7	アンケートによる生徒の評価				
生徒指導	①挨拶、言葉遣い、基本的なマナー、規範意識の向上について、学校生活の全ての場面で全職員が指導に当たり、生徒理解に基づく支援を行います。	施策Ⅰ-1 施策Ⅰ-2	生徒、保護者、地域の評価。また、取組の結果等を検証する。	①挨拶、言葉遣い、基本的なマナー、規範意識の向上について、学校生活の全ての場面で全職員が一致して指導に当たり生徒理解に基づく支援を行うようにした。 ②生徒会を中心として、生徒が主体的に地域行事や地域施設を利用した学習に積極的に参加し、地域との交流を深め自己肯定感の高揚を得ることに努めた。 ③ふるさと魅力体験事業を活用するとともに外部の人材による各種講座を増やし、地域に根ざした道徳心を育てるようにした。 ④出身中学校や福祉機関、医療機関等との連携を密にし情報交流を深め、適切な生徒理解と支援を行った。	B	○学校評価アンケート「高校生としてあいさつやマナーなど社会規範を身に付けるための指導を行っている」について90%の保護者・生徒が肯定的評価。 ○学校評価アンケート「教育相談体制の充実など、生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりに努めている」について91%の保護者が肯定的評価。 ○生徒会選挙に立候補者が多数立候補するなど生徒の主体的な取り組みの充実により自己肯定感をより多くの生徒が感じられた。 ▲問題行動や校内でのルールを守らせていく観点からみると、教職員の一致団結したより一層の指導が課題と言える。	B
	②地域行事や地域施設を利用した学習に積極的に参加し、地域との交流を深めて自己肯定感の高揚に努めます。	施策Ⅰ-4 施策Ⅰ-7	生徒・職員がどの程度地域と関わり、新たな発見をすることができたか。				
	③ふるさと魅力体験事業を活用するとともに、外部の人材による各種講座等を増やすことにより、地域に根ざした道徳心を育てます。	施策Ⅰ-1 施策Ⅰ-2 施策Ⅰ-7	生徒が何をすることができたか、意識の変化はあったか。				
	④出身中学校や特別支援学校と高校間、医療機関等との連携を密にし、情報交流を深めることで、適切な生徒理解と支援をします。	施策Ⅰ-7	どのような方法で生徒の成長及び進路意識の向上に結びつけたか。				
進路指導	①高校3年間を見通した指導計画を作成し、生徒一人一人が各自の進路目標を達成できるように、全職員で指導と支援の充実を図ります。	施策Ⅳ-23	生徒が決めた目標を達成できたか。また、保護者や外部の視点からも妥当であったか。	①基礎力診断テストを2回実施して、学力の進捗状況を確認した。業者から、分析・助言をいただき、指導に役立てた。 ②企業や上級学校の情報収集を行い、担任や進路説明会を通じて生徒にフィードバックした。市と連携して企業見学を勧め、ミスマッチを防ぐ取り組みを行っている。 ③進路説明会やガイダンスなど、効果の高い進路行事を厳選して実施した。インターンシップやデュアル実習などの取り組みが、内定につながった生徒もいた。	B	○就職希望者は担任団のきめ細やかな指導の成果もあり、多くの生徒が希望企業に内定した。 ○進学希望者については先生方の教科指導や小論文指導により、多くの生徒が希望の学校に合格した。国立・公立大学に挑む生徒もいる。 ▲基礎力診断テストや模試などの外部ツールをさらに有効に活用する余地がある。学力評価だけでなく生徒理解にも利用したい。	B
	②「COREハイスクール事業」を活用し各種教育活動を通じて地域に貢献できる人材を育てます。	施策Ⅰ-7	地域とのふれあいの中で、何を学び、地域の声をどう反映することができたか。				
	③地域の企業等と連携した企業実習の充実を努め、望ましい職業観、勤労観を育てます。	施策Ⅰ-7 施策Ⅱ-13	企業実習を通して職業観、勤労観が高められたか。				
学校経営	①広報活動を活発に行うことにより、学校の活動や魅力を家庭や地域に広く伝え、学校と家庭・地域社会との相互理解を図ります。	施策Ⅰ-7 施策Ⅳ-20	本校に対する理解はどの程度深まったか。	①県下でもトップクラスのホームページの更新、生徒会によるSNSでの発信、学校広報誌による広報活動に努めた。 ②グループウェアの活用で効率的な業務推進を目指すとともに一人でも業務を抱えないように複数で担当するように努めた。 ③職員間の情報共有を徹底させて協力して業務に取り組めるように努めた。	B	○少人数での総合学科の利点などを積極的に外部に発信させることで地域の中学校の理解を深めることができた。 ▲理解を深めることができていると思うが定員を充足するまでには至らず更なる工夫が必要と考えられる。 ○時間外勤務が昨年度と比べてすべての月において減少した。 ○ストレスチェック結果で心理的な仕事負担の量・質ともに県の高専学校平均値を下回っている。	B
	②常に教職員の業務の見直しを図り、適正化・効率化に努め、教職員が生き生きと働き、生徒ひとりひとりとしっかり向き合える時間の確保に努めます。	施策Ⅳ-27	時間外在校等時間の上限を超えない取組、工夫ができていたか。				
	③教職員が信頼し合えるチームづくりを行い、「働きやすい環境づくり」を構築します。	施策Ⅳ-28	適切に年次休暇等を活用するなど、健康管理に配慮しているか。				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年2月12日

学校関係者評価

実施日：令和8年1月28日

・来年度、恵那地区5校が統合され恵那南中学校が開校するのに備えて連携検討会議を開催して教職員の交流も含めて連携内容等について検討する。  
・生徒情報の共有をさらに強化し、職員間での指導の統一、協力体制の強化を図る。  
・基礎力診断テストや外部模試などをさらに有効活用し、生徒理解に努める。  
・ホームページによる情報発信だけに頼らず、InstagramやFacebookなどのSNSツールを積極的に利用配信して本校の魅力や特色を浸透させるように努める。

・「産社・総合学習発表会」の発表内容などのレベルが確実に上がり、生徒のコミュニケーション能力や自己表現能力、そして自己探究能力が向上している。  
・小規模の総合学科高校という特徴を存分に生かして生徒が伸び伸びと学習し成果を残している姿が見られる。  
・個々の能力にきめ細かな指導を実施することで多種多様な進路実現ができていく。  
・学校に落ち着いて通える、個々に応じて学ぶことができる、いじめなどの大きな問題がないという学校として大切なことが実現されている。  
・来年度、恵那南中学校と積極的に連携・交流を検討して実践してほしい。